

今日の説教のポイント<創世記9章1-7節>

①洪水後の世界 — 新世界の始まり

6章から8章に示されたノアの洪水は、地上に満ちた人間の罪故に、神様が造られた世界を混沌へ戻される出来事でした。洪水後のノアは第二のアダムのような存在です。神様は創世記1章で語られたようにノアたちを祝福して、「産めよ、増えよ、地に満ちよ」と言われました(1, 7)。それは人間がその罪故に動物から「恐れおののかれる」けれども、再びそれらを「ゆだねられる」世界でした(2)。私たちは、創世記1章ではなく、ここに現代まで続く世界の始まりを見、考えて生きる者とならなければなりません。なんという神様の寛容さでしょう！ アダムとエバ、カイン、レメクそしてノアの同時代の人々の罪の姿。その人間を滅ぼして終わりにされず、なおやり直そうとして下さるとは！

②新世界の新しい秩序の下で生きる 新規制その一 肉食の許可

新世界ですが、「産めよ、増えよ、地に満ちよ」という前と同じ「祝福」が与えられます(1)。感謝！ その上で、植物を食料とするだけでなく、肉食の許可(3)が新たに加えられますが(1章29節との違い)、「ただし、肉は命である血を含んだまま食べてはならない」(4)という規制が付いています。これはどういうことでしょうか。「肉食は許すが、むやみやたらに命を収奪してはならない」、という新たな新規制です。現代の時代にも当てはまる、無理ない許可と大事な規制です。

③新規制その二 命の尊重。特に神にかたどって造られた人間の命

5節には、神様が「命を賠償として要求する」という言葉が繰り返されています。一見、恐ろしく思える言葉ですが、その後、「人は神にかたどって造られたからだ」(6)とされているように、神様が人間の命の重さを思うが故の言葉であって、決して死刑を容認するような言葉ではありません。「どんな人も神様が神様にかたどって造られた？ あの人のがどこが？ 私のどこが？」、そんな風に考えてはなりません。むしろ、この神様の言葉を信じて生きて行こうとすることが大切なのです。他者を尊重する精神も、この神様に基づく考え方をすることから生まれて来るのです。私たちの罪深さはアダムの時と同じ。だのに与えて下さった新世界での生。この神様の恵みにお応えする生き方をめざしましょう！